

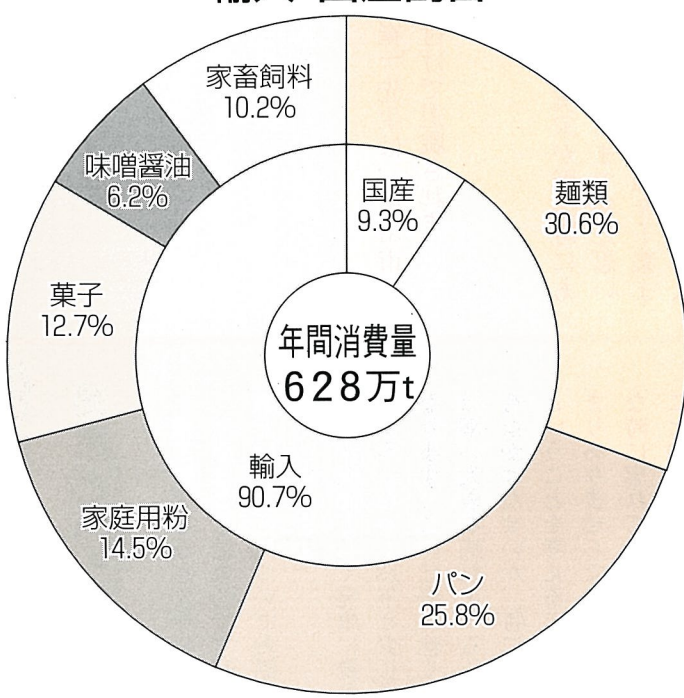
普及センター だより

小麦の話あれこれ 小麦粉の使い道

日本で消費されている麦を大きく分類すると、小麦、大麦、ビール麦の3種類になります。小麦は小麦粉に、大麦は麦茶や麦飯に、ビール麦は、ビールになります。ここでは、用途も消費量も多い小麦について考えてみましょう。

年間の一人当りの小麦消費量は30kgで、米の消費量60kgと比べても、かなり多いことがわかります。残念ながら、自給率はわずかに9%と低いのが現状です。ただ、うどん、そばといった日本麺は半分が国産小麦で作られています。小麦粉は、タンパク質の多い順から、強力粉、中力粉、薄力粉に分けられます。グルテンは粘りのもとになる成分で、加工用途に合った含量が求められます。

小麦の消費用途割合と 輸入・国産割合



こんな身近に小麦栽培が
横芝町北清水では、水田転作作物として、昨年からは、

小麦の栽培を始めました。栽培面積は26haと山武郡市内では最大の規模です。11月に種がまかれ、緑の少ない冬から初春にかけて成育し、麦秋の6月中旬には収穫となります。また、刈幅3.6mの国内最大級のコンバインで収穫される光景は圧巻です。もう一つの季節を見せる、小麦の観察に出かけてみてはいかがでしょう。

文芸

俳句

どんぐりや踏みじられし靴の跡
小林 順子

池水にどんぐり浸し落す泥

声立てて笑ふ幼児木の実落つ

幾曲り経て天守閣木の実落つ

幼き日実家に拾ひし椎の実よ

椎巨木ふりしきること木の実落つ

奥入瀬の流れの底の木の実かな

落鮎の身を任せたる流れかな

夜の更けに木の実反転響く音

落鮎や眼に滲む赤き鮎

下り鮎のぼる頃より通院す

慈母病むや薬膳鮎鮎粥つくり

短歌

一年忌はや巡り来ぬ突然の
訃報に友を失ひし夏

播きどきより水かけて来し人参は
台風来の風に耐へをり
鈴木 やす

かなかなと鳴きぬる声を繰り返へし
短き七日ひぐらしの生
渋谷 静子

雷雲の筑波の峰より湧き出でて
ともなふ雨に稲妻はしる
萩原 信一

暮れそめる稲田にいくつ螢あて
飛び立つときに強く光りぬ
秋葉 悦子

朝顔が種もまかぬに芽を出して
小さき花をいくつつかかす
石井 ユク

わだつみの海の遠鳴り不気味にも
やみの浜辺に波くろく寄る
永藤 滋

あかあかと大の字となり夜をこがす
御霊送りの大文字焼き
吉岡 信子

柵経に廻り来し僧をねぎらふと
たてし抹茶のほのかに香る
佐瀬 初音

秋彼岸車椅子にて仏壇に
香をたのみて手を合せたり
土屋 栗水

ユーチャリスとふ白き花の名覚えむと
その名貼り置く活けし花瓶に
齋藤つね子

池田 春江